

第8回 「くすりのしおりクラブ」 担当者会議を開催

くすりのしおりコンコーダンス委員会 岸野 淳二

「医薬品の安全性情報を患者に届けるために」と 「電子お薬手帳ご紹介」をテーマに講演2題

くすりのしおり[®]を作成している製薬企業150社の担当者とくすりの適正使用協議会との情報交換の場として、第8回「くすりのしおりクラブ」担当者会議を平成27年2月10日（火）に大手町サンスカイルームで開催しました。

講演1では、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構・安全管理監の俵木 登美子先生をお招きし、「医薬品の安全性情報を患者に届けるために」をテーマに講演いただきました。昨年の法改正（医薬品医療機器法）で、特に“国民の役割”として「医薬品の適正使用のため知識と理解を深めること」が明記されたことを受けて、市販後安全対策の強化や安全性情報の提供の重要性について述べられました。

続いて講演2では、SONY株式会社harmo事業室ソリューション開発課長の福士 岳歩先生をお招きし、「電子お薬手帳 harmo（ハルモ）ご紹介」をテーマにご講演いただきました。

ソニーが開発した電子お薬手帳サービス「harmo（ハルモ）」は、薬の履歴をカード1枚で管理できるサービスで、薬の検索機能としてくすりのしおり[®]が使われています。

harmoのメリットは

- ①薬局でカードをタッチするだけ
- ②セキュリティが十分に配慮されている
- ③スマホがあれば薬の履歴をいつでもどこでも閲覧可能等で、カードを財布に入れておけるので持ち歩きにも大変便利です。既に川崎市や横浜市の一部ではこのサービスが取り入れられており、利用者及び導入薬局の薬剤師から好評を得ていることが紹介されました。

協議会としても講演1のとおり、患者さんに医薬品の安全性情報をどのように確実かつタイムリーに届けるのかを医療関係者、行政や製薬企業が一体となって考えていくことが重要と考えています。



会議後半では、くすりのしおりコンコーダンス委員会の活動報告とくすりのしおり[®]の利用状況等について報告しました。くすりのしおり[®]の掲載品目は日本語版：14,539品目、英語版：4,109品目の計18,648品目（平成27年1月末現在）で、今後もくすりのしおり[®]（特に英語版）の認知度向上と利用促進を図るため啓発活動を継続していく予定です。

なお、会議後の参加者へのアンケートでは、「参考になる情報を聞かせてもらえて良かった」、「harmoにとっても興味を持った」などのご意見を頂きました。

くすりの適正使用協議会では、“コンコーダンス”の実現に向けて、くすりのしおり[®]がコミュニケーションツールとして医療現場で更に活用されることを目指して今後も活動していきます。



「くすりのしおり[®]」作成企業一覧

<http://www.rad-ar.or.jp/siori/sioriclublist.html>